

井穴

井穴は五島で最大かつ最長の溶岩洞窟である。福江島の南端、富江半島の大部分を占める溶岩台地にある。この台地は、18 万年から 5 万 1000 年前の間に、粘性の低い玄武岩質の溶岩の噴火によって形成された。この種の流れの速い溶岩は、しばしば溶岩洞窟を作り出し、その多くがこの地域で見られる。

溶岩洞窟は、溶岩が噴火地点から流れ出るときにできるトンネルである。溶岩が流れると、その表面は空気にさらされ、冷えて固まり始める。やがて固い地殻が形成されるが、その下にはまだ溶けたままの溶岩が地中をトンネル状に続いている。しかし、溶岩の一部は常に冷やされた殻として取り残されるため、流れは最終的にそれ自体が枯渇する。最後の溶岩が固まったとき、残るのは洞窟のようなトンネルである。

井穴の入り口は高さ 3.5 メートル、幅 6.5 メートルだが、場所によっては高さ 6 メートル、幅 13 メートルに達するトンネルもある。入り口から 400 メートル先が水で満たされているため、トンネルの正確な長さは不明である。水はやや汽水色で、水位は潮の満ち引きに影響されるようであることから、このトンネルは地下深くのどこかで海につながっていると考えられる。この地下貯水池は、ハゼの固有種であるドウクツミズハゼのような珍しい洞窟生物にニッチな生態系を提供している。一方、井穴の水没していない部分には、ヒガシオオコウモリ、コビトカブトコウモリ、ニホンオオアシカコウモリの住処がある。